橘　りつ　編

# 鳥丸光廣集

上

〔訂正版〕

古典文庫

# 爲丸光廣集

上

〔訂正版〕

橘　りつ編

古典文庫

古典文庫第五七三冊

平成六年八月二〇日印刷発行　非売品

烏丸光広集　上巻

編者　橘　りつ

発行者　吉田幸一

印刷者　白橋印刷所

発行所　114　東京都北区西ケ原三ノ三四ノ一二　古典文庫

電話　〇三（三九一〇）二七一七

振替口座東京〇〇一九〇-九-一四五九七番

© KOTEN BUNKO, 1994. Printed in Japan

# 烏丸光広集

上巻

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

# 目次

上巻

凡例……五
一、黄葉集　写二冊……七
二、光広卿五十首和歌　写一冊……二六五
三、御着到百首　写一冊……二七七
四、烏丸亜相光広卿集　写一冊……二九九

下　巻

五、光広卿百首　写一冊
六、光広卿詠草・幽斎点　写一冊
七、慶長十七年壬子光広詠草（『長嘯子新集』下巻所収「和謌大路雪」影印による）
八、烏丸光広卿東海道紀行御詠草巻軸　写一巻
九、光広歌書巻　写一巻
十、後水尾院　聖廟御法楽（自寛永十年正月至同十一年三月）　写一冊
解　説
和歌初二句索引

# 凡例

一、本書には、次の諸本を底本として翻刻した。

「黄葉集」写二冊、国立国会図書館蔵〈二四・二・二〇六〉

「光広卿五十首和歌」写一冊

「御着到百首」写一冊、都立中央図書館蔵〈加賀文庫・七〇二九〉

「烏丸亜相光広卿集」写一冊、祐徳文庫蔵中川文庫本〈六・二、二・二五〇〉

「光広卿百首」写一冊、祐徳文庫蔵中川文庫本〈六・二、二・二八五〉

「光広卿詠草・幽斎点」写一冊、祐徳文庫蔵〈六・二、二・三四七〉

「慶長十七年壬子光広詠草」（『長嘯子新集』下巻所収・「和謌大路雪」影印による）

「烏丸光広卿東海道紀行御詠草巻軸」写一巻

「光広歌書巻」写一巻、東洋大学図書館蔵〈K九二一、一五・KM〉

「後水尾院　聖廟御法楽（自寛永十年正月至同十一年三月）」写一冊、東洋大学図書館蔵〈九二一、一五七・

G—2≫

二、翻刻は、できるかぎり底本に忠実であるようにつとめ、漢字・仮名の別、当て字、誤字、脱字、送仮名、仮名遣い、振仮名などは底本のままとした。

三、漢字、仮名は原則として通行活字体を用いた。

四、私見は当該個所の右傍に（…カ）を付けて記し、また原文のままに翻字して誤植の疑いをもたれるような個所にはその右傍に（ママ）とした。

五、「本ノマヽ」や行間の書き入れは底本に記載してあるとおりとした。

六、見せ消ちは底本に従って「と」を付けた。

七、詞書には適宜句読点を付けて読みやすくした。

八、和歌は一首一行にし、歌頭に、通し番号を付けた。ただし「黄葉集」には、その下に算用数字で「新編国歌大観」の歌番号を付けた。

九、終りに、底本の所蔵者各位に感謝申し上げる。

# 一、黄葉集　写二冊

国立国会図書館蔵

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

# 黄葉集「上」〈題簽〉

## 院御着到百首　寛永十四年

### 春二十首

立春

一　1　あつまより立くる春ものとけさは雲ゐの空やはしめ成らん

二　2　立かへる花のこのめのはる風はわか水むすふそてよりそ吹

朝霞

三　3　おきいてゝむかふ外山のあさな〳〵ちかくてとをくかすむころかな

谷鶯

四　4　うくひすのふるすなからのこゑにこそ谷には春も有けるものを

残雪

五 5 ふりそふとみえしやとけて村消は去年のまゝなる庭のしら雪

六 6 さえかへるそらまちいてゝ春ふるや雲のあなたに残るしら雪

若菜

七 7 なかれきぬあさゝは水のうす氷わかなもとめてたれもつむらし

八 8 たれか又たれをしたひてくるすのに我友人はわかなつむらん

里梅

九 9 泊瀬風なを吹かよへ三輪の里杉の木のまも梅かほるなり

簷梅

一〇 10 折もせてあかぬにほひはをのつから袖にかさなる軒の梅かゝ

春月

一一 11 空も今おほろにみゆる春のよは月のかつらの花くもりかも

春曙

一三 12 いへはえにあはれそふかき色みえぬなかめをつくす春の曙

帰鴈

一三 13 秋風にさそはれそめしかりかねやかへるこしちに又いそくらむ

春雨

一四 14 半天にあそへるいとゝみるほとにさすかくもりて春雨そふる

一五 15 染そへて春雨ふりぬあさもよひ昨日みさりし野への緑を

岸柳

一六 16 よる浪のあやをりそへてかけひたす龍田のきしの青柳の糸

一七 17 春風の吹なひかけるあをやきにきしねの草そみたれあひたる

待花

一八 18 一春のこゝろかへするはなもかな待につらさをおもひしるやと

初花

一九 19 あくかるゝことはりしりて咲そむる岩もと桜いは木とはなし

二〇 20 咲つかむ野山の春は有ぬともたゝめつらしき宿のはつはな

見花

二一 21 陰しめてわか深山木のいかならむ花にこゝろはうつしはてにき

二二 22 むかひみる色かはあやしさかぬまも花のうへこそこゝろなれとも

花盛

二三 23 立かへり花はまたれぬものとしも思ふはかりのさかりをそしる

落花

二四 24 あやにくに散はなならは心みにちるもおしまし風もうらみし

款冬

二五 25 露ふかき枝もまかきもとをゝにて八重咲うつむ山吹の花

池藤

二六 26 かけうつす池のみきはの藤さけは風にまかせぬ浪そ立ける

暮春

二七 27 とにかくに暮行春のほとなさはやよひくはゝることにしそしる（ママ）

## 夏十五首

更衣

二六 28 あかさりし心をみえは夏ころもさくらかさねや下ににほはむ

卯花

二九 29 うのはなのひかりもそれとまかひけりかけみぬ月の名にはおへとも

待郭公

三〇 30 めつらしと猶きゝそめむほとゝきすまたてもゝらぬ(すカ)しのひねも哉

聞郭公

三一 31 くらへては花も紅葉もはつこゑの色にとられむ山ほとゝきす

三二 32 我そたゝこゝろそらなるほとゝきすおほつかなさのこゑにまとひて

郭公稀

三三 33 初音きくころにも過てしたはれぬなきすかりての山ほとゝきす

故郷橘

三四 34 たれかそのいまをしのへとふるさとにうへて幾世の軒のたち花

三五 35 さらてたにむかしをしのふつまなれやけにふるさとの軒のたち花

早苗

三六 36 幾里のおなしさなへもとり〳〵に小田のうへめの手ふり分らん

五月雨

三七 37 はらへとも雲の幾重に空とちてかせのあとみぬ五月雨の比

鵜川

三八 38 かゝり火のたきもけたすはうかひ舟まよはむ罪の身をてらさめや

叢蛍

三九 39 草むらの露はこほるゝ風の上にうきてほたるそかけのみたるゝ

夏草

四〇 40 行方に中〳〵道そたとられむのすちをかへてむすふ夏草

七月



此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com